



水道事業ガイドライン業務指標 (平成21～25年度)

1. 安心(すべての国民が安心しておいしく飲める水道水の供給) P. 1
 2. 安定(いつでもどこでも安定的に生活用水を確保) P. 2
 3. 持続(いつまでも安心できる水を安定して供給) P. 3
 4. 環境(環境保全への貢献) P. 4
 5. 管理(水道システムの適正な実行・業務運営及び維持管理) P. 5
- ※ 国際(わが国の経験の海外移転による国際貢献) 〈該当ありません〉



★ 水道事業ガイドライン業務指標（平成21・22・23・24・25年度 経年比較） ★

《表の見方》

◎水道事業ガイドラインの目標別業務指標(安心・安定・持続・環境・管理・国際)

1. 【 指標 No. 】水道事業ガイドラインに規定された業務指標のうち、用水供給事業が該当する主な指標別の項目番号を表しています。
2. 【 指標名称 】水道事業ガイドラインに規定された業務指標の名称を表しています。
3. 【 計算式及び単位 】水道事業ガイドラインに規定された業務指標の計算式(定義)と単位を表しています。
4. 【 指標の優位性 】
 - (1) 水道事業ガイドラインが想定する一般的な理想値の優位性(目指すべき方向)を矢印で示しています。
なお、単独の指標値だけでは一概に評価できないものは「－」で示しています。
 - (2) 各々水道事業体の個別要因(財政事情や施策等)を踏まえた場合、必ずしもガイドラインの優位性と一致しない指標もあります。
5. 【 指標の意味 】それぞれの業務指標の持っている意味を簡潔に表しています。
6. 【 指標値 】業務指標の値を表しています。平成21年度から平成25年度までの5か年の指標値を算出しています。
7. 【 コメント 】指標値に対しての現況の説明や経年変化の説明などを記載しています。

水道事業ガイドライン業務指標(平成21～25年度)

1. 安心(すべての国民が安心しておいしく飲める水道水の供給)

(1) 水道水源の保全

指標No.	指標名称	計算式(定義)及び単位	指標の優位性 目指すべき方向	指標の意味	H21	H22	H23	H24	H25	コメント
1002	水源余裕率	$[(\text{確保している水源水量}/\text{一日最大配水量})-1] \times 100 (\%)$	↑	水源のゆとり度,水源の効率性を表す指標。割合は高い方が望ましい。	72.1	60.8	65.4	62.5	70.2	受水団体が必要な水利権水量を確保して,安定した水道用水の供給を行っています。一日最大配水量が減少したため,指標値が若干高くなりました。
1003	原水有効利用率	$(\text{年間有効水量}/\text{年間取水量}) \times 100 (\%)$	↑	原水をどれだけ有効に利用したかを表す指標。割合は高い方が望ましい。	100.0	99.7	99.6	99.9	100.8	原水を有効に利用しています。指標値はほぼ横ばい傾向です。100%を上回った原因は計器の誤差です。

(2) 水源から給水栓までの水質管理

指標No.	指標名称	計算式(定義)及び単位	指標の優位性 目指すべき方向	指標の意味	H21	H22	H23	H24	H25	コメント
1104	水質基準不適合率	$(\text{水質基準不適合回数}/\text{全検査回数}) \times 100 (\%)$	↓	水質基準に違反のないよう給水されていることを示す指標。割合は限りなく0%が望ましい。	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	全項目水質基準以下となっています。0%を維持。
1105	カビ臭から見たおいしい水達成率	$[(1-\text{ジェオスミン最大濃度}/\text{水質基準値}) + (1-2-\text{メチルイソボルネオール最大濃度}/\text{水質基準値})] / 2 \times 100 (\%)$	↑	水質基準を満たした上で,よりおいしい水を給水することを目指した指標。	85	90	90	85	85	活性炭の注入など臭気低減化に取り組んでいます。
1106	塩素臭から見たおいしい水達成率	$[1-(\text{年間残留塩素最大濃度}-\text{残留塩素水質管理目標値})/\text{残留塩素水質管理目標値}] \times 100 (\%)$	↑	水質基準を満たした上で,よりおいしい水を給水することを目指した指標。残留塩素は低い方が「おいしさ」からは好ましい。	50	50	50	50	50	最末端の調整池で残留塩素0.4mg/l以上を維持する必要から,浄水場の最低残留塩素は0.6mg/l必要で,指標値はこの時50%になります。安全性確保のための残留塩素は必要なものですが,おいしさからは残留塩素は低い方が良いとされています。

2. 安定(いつでもどこでも安定的に生活用水を確保)

(1) 連続した水道水の供給

指標No.	指標名称	計算式(定義)及び単位	指標の優位性 目指すべき方向	指標の意味	H21	H22	H23	H24	H25	コメント
2004	配水池貯留能力	配水池総容量/一日平均配水量(日)	↑	給水に対する安全性、災害、事故等に対する危機対応性を示す指標。需要と供給の調整及び突発事故のためは0.5日以上は必要。	0.89	0.88	0.92	0.92	0.94	0.8日分以上を確保しています。

(2) 将来への備え

指標No.	指標名称	計算式(定義)及び単位	指標の優位性 目指すべき方向	指標の意味	H21	H22	H23	H24	H25	コメント
2101	経年化浄水施設率	(法定耐用年数を超えた浄水施設能力/全浄水施設能力)×100(%)	↓	浄水施設の老朽化の度合いを示す指標。値が大きいほど古い施設が多い。	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	法定耐用年数(60年)を超えた施設はありません。
2102	経年化設備率	(経年化年数を超えている電気・機械設備数/電気・機械設備の総数)×100(%)	↓	電気・機械設備の老朽化の度合いを示す指標。値が大きいほど古い施設が多い。	44.4	44.4	41.7	39.8	38.9	法定耐用年数を超えた設備数が徐々に増加していますが、更新計画に基づき適切な施設の延命化と維持管理を心がけています。経年化率は良化傾向にあります。
2103	経年化管路率	(法定耐用年数を超えた管路延長/管路総延長)×100(%)	↓	管路の老朽化の度合いを示す指標。値が大きいほど古い施設が多い。	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	法定耐用年数(40年)を超えた施設はありません。

(3) リスクの管理

指標No.	指標名称	計算式(定義)及び単位	指標の優位性 目指すべき方向	指標の意味	H21	H22	H23	H24	H25	コメント
2202	幹線管路の事故割合	(幹線管路の事故件数/幹線管路延長)×100(件/100km)	↓	管路施設の健全性を示す指標。値は低い方が良い。	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0	幹線水路からの漏水事故等はありませんでした。指標値は横ばいです。
2207	浄水施設耐震率	(耐震対策の施されている浄水施設能力/全浄水施設能力)×100(%)	↑	地震災害に対する水道システムの安全性、危機対応性を示す指標。値は高い方が良い。	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	現在、耐震化を施された浄水施設に該当するものではありません。今後、施設耐震化計画に基づき安全性、危機対応性の向上を図っていきます。
2208	ポンプ所耐震施設率	(耐震対策の施されているポンプ所能力/全ポンプ所能力)×100(%)	↑	地震災害に対する水道システムの安全性、危機対応性を示す指標。値は高い方が良い。	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	現在、耐震化を施されたポンプ所に該当するものではありません。今後、施設耐震化計画に基づき安全性、危機対応性の向上を図っていきます。
2209	配水池耐震施設率	(耐震対策の施されている配水池容量/配水池総容量)×100(%)	↑	地震災害に対する水道システムの安全性、危機対応性を示す指標。値は高い方が良い。	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	現在、耐震化を施された配水池に該当するものではありません。今後、施設耐震化計画に基づき安全性、危機対応性の向上を図っていきます。
2210	管路の耐震化率	(耐震管延長/管路総延長)×100(%)	↑	地震災害に対する水道システムの安全性、危機対応性を示す指標。値は高い方が望ましい。	38.6	38.6	38.6	38.6	38.6	新潟県企業局との共同施設である導水管路については、口径1,800mmの鋼管による施工であり、耐震管としています。
☆	耐震適合性を有する管路総延長率	(事業所が判断する良い地盤に布設された耐震管延長/管路総延長)×100(%)	↑	地震災害に対する水道システムの安全性、危機対応性を示す指標。値は高い方が望ましい。	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	全管路中で、良好地盤と考えられる路線の既設管や鋼管を布設した管路を耐震適合性を有する管路としています。送水管等の法定耐用年数経過後、耐震化計画に基づき安全性、危機対応性の向上を図っていきます。

3. 持続(いつまでも安心できる水を安定して供給)

(1) 地域特性にあった経営基盤

指標No.	指標名称	計算式(定義)及び単位	指標の優位性 目指すべき方向	指標の意味	H21	H22	H23	H24	H25	コメント
3002	経常収支比率	$[(\text{営業収益} + \text{営業外収益}) / (\text{営業費用} + \text{営業外費用})] \times 100 (\%)$	↑	収益性を見る代表的な指標。100%未満では経常損失が生じていることを意味している。	137.2	138.3	132.6	123.5	117.1	経常収入が経常支出を上回っており健全な状態を維持しています。比率は若干減少しました。100%以上を維持。
3003	総収支比率	$(\text{総収益} / \text{総費用}) \times 100 (\%)$	↑	総費用が総収益によってどの程度賄われているかを示す指標。100%未満は健全な経営とは言えない。	137.2	138.3	132.6	128.5	122.7	総収入が総支出を上回っており健全な状態を維持しています。比率は若干減少しましたが、ほぼ横ばい傾向にあります。100%以上を維持。
3009	給水収益に対する企業債利息の割合	$(\text{企業債利息} / \text{給水収益}) \times 100 (\%)$	↓	事業の収益性を分析するための指標。3008及び3010と合わせて分析することで、効率化を図るべき費用項目の把握が可能。値は低い方が良い。	9.9	8.0	7.0	6.1	5.5	新規企業債借入を抑制したことで、企業債残高の減少に加え、高利率の企業債の償還が終了しつつあることにより、企業債利息負担が減少し、指標値は良化しています。
3010	給水収益に対する減価償却費の割合	$(\text{減価償却費} / \text{給水収益}) \times 100 (\%)$	↓	事業の収益性を分析するための指標。3008及び3010と合わせて分析することで、効率化を図るべき費用項目の把握が可能。値は低い方が良い。	24.5	23.5	23.5	25.4	26.7	給水収益は減少傾向にある一方、減価償却費は増加傾向にあります。指標値は若干上昇しました。
3011	給水収益に対する企業債償還金の割合	$(\text{企業債償還金} / \text{給水収益}) \times 100 (\%)$	↓	企業債償還金が経営に与える影響を分析するための指標。3009及び3011と合わせて分析を行うことで、企業債が資金収支に与える影響の把握が可能。値は低い方が良い。	45.5	26.3	20.9	16.3	14.7	企業債償還金、給水収益ともに減少したため、指標値は良化しました。
3012	給水収益に対する企業債残高の割合	$(\text{企業債残高} / \text{給水収益}) \times 100 (\%)$	↓	企業債残高の規模と経営への影響を分析するための指標。3009及び3011と合わせて分析を行うことで、企業債が資金収支に与える影響の把握が可能。値は低い方が良い。	223.7	211.7	215.3	210.1	205.9	企業債残高及び給水収益がともに減少したため、指標値は若干良化しました。
3013	料金回収率	$(\text{供給単価} / \text{給水原価}) \times 100 (\%)$	↑	供給単価と給水原価の関係を表しており、事業の経営状況の健全性を示す指標。100%を下回る場合、給水に係る費用が料金収入以外の収入で賄われていることを意味する。	128.8	134.7	120.2	115.6	109.7	100%を上回っていますので、給水に係る費用は料金収入によって賄われています。指標値は放射性汚泥対策費の増加に伴い、若干悪化しました。100%以上を維持。
3014	供給単価	給水収益/有収水量 (円/m ³)	↓	有収水量1m ³ 当たり、どれだけ収益を得ているかを表す指標。3013及び3015と合わせて見る必要がある。低額が望ましいが、単純に金額で判断するのは難しい。	54.0	53.6	52.9	52.6	53.9	給水収益、有収水量ともに減少したため、指標値は悪化傾向にあります。
3015	給水原価	$[\text{経常費用} - (\text{受託工事費} + \text{材料及び不用品売却原価} + \text{附帯事業費})] / \text{有収水量} (\text{円}/\text{m}^3)$	↓	有収水量1m ³ 当たり、どれだけ費用が掛かっているかを表す指標。3013及び3014と合わせて見る必要がある。安い方が望ましいが、水準だけで経営の優劣の判断は難しい。	41.9	39.8	44.0	45.5	49.1	定員適正化による人件費削減や経費節減効果により経常経費は減少していますが、放射性汚泥対策を実施したため指標値は悪化しました。
3019	施設利用率	$(\text{一日平均給水量} / \text{一日給水能力}) \times 100 (\%)$	↑	一日当たりの給水能力に対する一日平均給水量の割合を示すもので、水道施設の経済性を総合的に判断する指標。数値が大きいほど効率的。	54.5	54.9	55.7	56.1	54.7	一日平均給水量が減少したため、指標値はやや悪化しました。
3020	施設最大稼働率	$(\text{一日最大給水量} / \text{一日給水能力}) \times 100 (\%)$	↑	水道事業の施設効率を判断する指標。値は基本的には高い方が良い。	63.3	67.7	65.9	67.1	64.1	一日最大給水量が減少したことにより指標値はやや悪化しました。
3022	流動比率	$(\text{流動資産} / \text{流動負債}) \times 100 (\%)$	↑	短期債務に対する支払い能力を表す指標。100%を下回っている場合は、不良債務が発生している。	499.3	969.4	576.6	1,132.2	1,065.0	流動負債に対する流動資産の割合は比較的大きく、短期債務に対する支払能力は十分にあり。指標値は前年度比較では悪化しました。100%以上を維持。
3023	自己資本構成比率	$[(\text{自己資本金} + \text{剰余金}) / \text{負債} + \text{資本合計}] \times 100 (\%)$	↑	総資本に対する自己資本の割合を示しており、財務の健全性を示す指標。事業安定化には、比率を高めることが必要。	74.4	76.6	76.8	78.8	79.6	上昇傾向にはありますが、指標値はほぼ横ばいです。
3025	企業債償還金対減価償却費比率	$(\text{企業債償還金} / \text{当年度減価償却費}) \times 100 (\%)$	↓	投下資本の回収と再投資との間のバランスを見る指標。100%以下であれば、財務的に安全と言える。	185.9	112.1	88.7	64.1	55.0	企業債償還金が減少し、減価償却費が増加しましたが、減価償却費の増加割合が大きかったことにより指標値は良化しています。目標、100%以下を維持。

(2) 水道文化・技術の継承と発展

指標No.	指標名称	計算式(定義)及び単位	指標の優位性 目指すべき方向	指標の意味	H21	H22	H23	H24	H25	コメント
3101	職員資格取得度	職員が取得している法定資格数 / 全職員数 (件/人)	↑	水道事業遂行のうえで職員が持つことが望ましい資格の取得割合を示す指標。技術の継承、水道技術者の確保、育生のひとつの目安となる。	4.27	4.33	4.33	4.14	4.14	今後とも、専門知識を有する技術職員の育成を進めます。
3103	外部研修時間	(職員が外部研修を受けた時間・人数) / 全職員数 (時間)	↑	職員の資質向上に必要な研修受講者の割合を示す指標。職員一人当たりの外部研修時間を平均的に示す。	6.9	12.4	9.7	12.2	11.5	職員の専門知識の取得、向上を目的に、今後とも積極的に研修への参加を進めます。指標値は若干悪化しました。
3104	内部研修時間	(職員が内部研修を受けた時間・人数) / 全職員数 (時間)	↑	職員の資質向上に必要な研修受講者の割合を示す指標。職員一人当たりの内部研修時間を平均的に示す。	2.0	2.1	7.9	7.6	11.0	今後は、水道技術の継承がますます重要になるため、内部研修を充実させていきます。指標値は良化しました。
3105	技術職員率	(技術職員総数 / 全職員数) × 100 (%)	↑	水道文化・技術の継承の度合いを示す指標。技術的業務の直営維持が難しくなっている現状と関係が深い。	77.3	76.2	76.2	77.3	77.3	全職員数に占める技術系職員数の割合です。指標値は横ばい傾向です。
3106	水道業務経験年数度	全職員の水道業務経験年数 / 全職員数 (年/人)	↑	水道文化・技術の継承の度合いを示す指標。水道業務の職員の習熟度と関係が深い。	29.8	29.7	30.7	30.3	31.2	水道業務に対する専門的な知識を有した職員の割合です。指標値は若干良化しました。
3109	職員一人当たり配水量	年間配水量 / 全職員数 (m ³ /人)	↑	水道サービス全般の効率性を示す指標。職員が多いと低くなり、外部委託が多いと高くなる。	784,000	789,000	755,000	724,000	706,505	配水量が減少したため、指標値は若干悪化しました。

4. 環境(環境保全への貢献)

(1) 地球温暖化防止, 環境保全などの推進

指標No.	指標名称	計算式(定義)及び単位	指標の優位性 目指すべき方向	指標の意味	H21	H22	H23	H24	H25	コメント
4001	配水量1m ³ 当たり電力消費量	全施設の電力使用量 / 年間配水量 (kWh/m ³)	↓	環境負荷低減に対する取り組み度合いを示す指標。多くは総配水に要する電力で、地形的条件に左右される。	0.20	0.17	0.17	0.17	0.18	水道事業に係る全施設において使用した年間電力の総量を対象としています。比較的効率のいい状況となっていますが、指標値は横ばい傾向です。
4003	再生可能エネルギー利用率	(再生可能エネルギー設備の電力使用量 / 全施設の電力使用量) × 100 (%)	↑	環境負荷低減に対する取り組み度合い、環境保全度を示す指標。	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	今後、太陽光発電を予定しており、環境負荷低減・環境保全に努めます。
4004	浄水発生土の有効利用率	(有効利用土量 / 浄水発生土量) × 100 (%)	↑	環境負荷低減に対する取り組み度合い、環境保全度を示す指標。	100.0	100.0	81.7	0.0	83.5	浄水発生汚泥については、今後とも有効利用を図り、環境負荷低減・環境保全に努めます。前年度は放射性汚泥対策の実施により汚泥の利用ができなかったが、今年度は有効利用が出たため指標値は大きく良化しました。

5. 管理(水道システムの適正な実行・業務運営及び維持管理)

(1) 適正な維持管理

指標 No.	指標名称	計算式(定義)及び単位	指標の優位性 目指すべき方向	指標の意味	H21	H22	H23	H24	H25	コメント
5101	浄水場事故割合	10年間の浄水場停止事故件数 / 浄水場総数(箇所)	↓	浄水場の停止割合を示す指標。値は低い方が良い。	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	受水団体に信頼される水道であり続けるため、今後とも事故防止に努めます。0件を維持。
5110	設備点検実施率	(電気・計装・機械設備等の点検回数 / 電気・計装・機械設備等の法定点検回数) × 100 (%)	↑	管理の適正度を示す指標。	228	228	228	228	228	機器の正常な運転を保持するため、法定点検に加え自主点検を実施して、安全性確保に努めています。100%以上を維持。